

農学委員会 地域総合農学分科会（第21期・第1回）議事要旨

日時：平成21年1月22日 10:00-12:00

場所：日本学術会議 6-C(1)会議室

出席者：三野委員長・真木副委員長・内田幹事・大政・佐藤(晃)・佐藤(洋)・塩見・島本・生源寺・田中・長澤・中野・橋口・宮崎・三輪・森田各委員；以上16名

欠席者：飯國・梅田・小田切・宜保・三枝・新山・水谷・虫明 各委員；以上8名

議題

○開会に先立って、農学委員会委員長(世話人)真木先生からご挨拶と経過報告があった。

(1) 委員長，副委員長，幹事の選出

- 委員長に三野委員が満場一致で選出された。
- 三野委員長から、副委員長に真木委員、幹事に内田委員が指名された。

(2) 今後の分科会の方針について

- 土地改良長期計画等をもとに議論がなされ、国と地域の分担や地域農業の具体的施策について、委員が共通の認識をもち、提言の方向を決定するために、シンポジウム開催が提言され、了承された。
- 地域の現状を熟知し、地域農業の再生などの優良事例を話題提供してもらうために、鳥取環境大学でシンポジウムを開催し、同時に分科会も開催したいとの提案がなされた。
- 日本学術会議と鳥取環境大学の主催とすることに決定された。

(3) 提言等について

- 20期に水問題分科会と滋賀県立大学で共同開催したシンポジウムの成果と、5月のシンポジウムの成果を加えて、21期は本分科会からぜひ提言を出す方向で進める。
- 成熟・縮小型社会の中で地域農業のあり方が重要課題であり、これを提言に盛り込む。
- 北海道・沖縄など地域によって戦略が異なるが、委員の議論によってまとめていきたい。
- 短期・緊急的課題解決するために、WG設置が提案され、メール会議等で緊急の課題を2,3に絞ってWG設置を具体的に検討していくこととなった。
- 「農業振興と地域活性化」の問題は日本が直面する問題であり、日本学術会議講堂で議論することが提案されたが、9月の国際シンポジウムの成果と統合化した提言を来年の最終的提言段階で実施することとなった。
- 滋賀・鳥取を先進事例とし、北海道・沖縄も含めたモデル地域とするWGを構成し、国際シンポの成果を統合して、学術会議講堂でのシンポジウムを提言のための手段とすることが提案された。
- 「今年の秋か来年にシンポジウムを開催して提言にまとめる」ことでほぼ合意した。
- シンポジウムの開催予定日を5月25日(月)とし、26日(火)はコウノトリで有名な豊岡市を見学する。
- シンポジウムの講師はメール会議で相談する。

(4) その他

なし